明治十六年五月廿五日　山縣参議

各省院廳府縣長官宛

第陸拾肆號

明治十六年五月七日

大臣　内閣書記官

主管參議

官報發行ノ件ニ付驛逓局及印刷局ヘ命令之事

官報郵送ノ件ニ付左ノ條款ヲ約定ス

一驛逓局ハ官報壱部ニ付郵便税五厘ノ割合ヲ以テ郵送スヘシ

一官報ハ他ノ郵便物ト混淆セサル為メ郵便税納済ノ印ヲ捺シ帶封ニシテ差立ツヘシ但東京府下直配達ニ係ル者ハ此例ニ在ラズ、

明治十六年五月十一日

太政官文書局長平田東助

驛逓総監 逓信卿 伯爵 野村靖

甲八六

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

正本

驛遞局ヘ

官報ノ発賣ヲ命スルニ就キ左ノ條款ヲ付ス

第一條　官報ハ左ノ時間割ヲ以テ印刷局ヨリ交附スヘシ

三千部マテ	午前四時同五時	貳千部残余
三千部以上五千部マテ	午前三時同四時	二千部残余
五千部以上七千部マテ	午前二時同三時	二千部
	同四時同五時	二千部残余
七千部以上壱万部マテ	午前二時同三時	二千部

壱万部以上　同四時　三千部　同五時　残余

第二條　官報ノ府下配達出切ハ遅クトモ毎日午前一時ヨリ同五時マテ悉皆午前六時ヲ過クヘカラズ

第三條　官報ハ壱部貳錢ノ原價ヲ以テ交附シ手数料トシテ五厘ヲ附與スルニ付壱部三錢ノ定價ヲ以テ賣捌キ五厘ヲ以テ郵便税ニ充ツベシ但賣捌代金ハ前金ニ限ルモノトス

第四條　賣弘所等ヲ設置スルハ驛逓局ノ便宜ニ任ス

第五條　廣告文ハ前日受取タル者ヲ取纏メ翌日午前十時迄ニ文書局ヘ送致スベシ但特ニ至急ヲ要スル者午後三時前ニ受取リタルトキハ直ニ送致スベシ

第六條　官報原價及廣告料ハ毎翌月十日迄ニ明細書ヲ添ヘテ文書局ニ納ムヘシ

第七條　官報発賣部数ノ増減ハ毎日午後三時迄ノ報告ヲメ切午後五時迄ニ驛逓局ヨリ直ニ印刷局ニ通知スヘシ但同日中文書局ヘモ

必ス通知スヘシ

第八條　報告メ切時限後ニ於テ購讀廢止ノ報告ヲ得テ不用ニ屬スル官報ノ損金ハ文書局ノ負擔ニ帰スヘシ

住所不分明又ハ轉居等ニ因リ再度逓送配達スル費用ハ賣捌方ニ於テ負擔スベシ但郵便不達等ニテ官報破損アルトキハ其事由ヲ文書局ニ通知スレハ文書局ヨリ之ヲ交付シ該官報ノ原價ハ文書局ニ於テ負擔スルモノトス

第九條　毎日印刷局ヨリ受取タル官報ノ部数並ニ時刻付ヲ製シ翌朝之ヲ文書局ニ報告スヘシ

郵便配達発送ノ時刻ハ驛逓局ノ定規ニ照シ兼テ一定ノ時刻ヲ文書局ヘ報告シ置キ其時刻ニ差異ヲ生シタルトキハ其都度之ヲ報告スベシ

第十條　官報ハ祝日大祭日日曜日ヲ除キ毎日之ヲ刷行ス若シ臨時休刊スルコアルトキハ午十二時迄ニ文書局ヨリ驛逓局ニ通知スヘシ

明治六年四月十五日　太政官

正本

命令案

印刷局

官報ノ印刷ヲ委付スルニ就キ左ノ條欵ヲ命ス

第一條　印刷局ハ官報印刷上ノ事ニ關シテハ総テ文書局ノ命令ニ従フベシ

第二條　印刷局ハ別紙雛形ノ官報一部ニ付部數一萬五千部以内ハ都テ金壱錢五厘ノ定價ヲ以テ印刷スベシ但シ記事ノ都合ニ因リ或

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ紙數ヲ增シ或ハ本紙ト同体裁ノ附錄又ハ臨時号外ヲ癸付スルヿアルキハ本紙ノ割合ヲ以テ別段印刷費ヲ增給ス若シ記事ノ都合ニ因リ紙數ヲ減スルキハ同樣ノ割合ヲ以テ印刷費ヲ減スベシ

第三條　印刷局ハ官報印刷高ノ增加スルニ從ヒ左記ノ割合ヲ以テ印刷定價ヲ逓減スベシ

一印刷高一萬五千部以上トナルキハ一部ニ付壱錢四厘トナス

一同二萬五千部以上トナルキハ一部ニ付壹錢三厘トナス

第四條　諸般ノ官令其他文書局ヨリ交付シタル文稿ハ其條章字句トモ一切印刷局ニ於テ改竄スベカラザルハ勿論全ク錯誤ナキ樣印刷スルヲ要ス但シ字句ノ間明ニ誤謬ト認ムル者アラハ文書局ニ通知スベシ

第五條　印刷局ハ文書局ヨリ交付スル原稿ノ行草又ハ畧字等ニテ書シタルモノト雖モ楷正ニ直シテ印刷シ又文稿ニ添竄ヲ加ヘ淨寫セズシテ其侭交付スルモノアルモ其字句ニ

於テ錯誤ナキ様印刷スベシ

第六條　文書局ハ局員ヲ印刷場ニ出張セシメ校正其他ノ事ヲ監督スベシ

第七條　官報ノ原稿ハ毎日午後四時迄ニ可成巻皆交付スベシト雖モ臨時掲載ヲ要スル緊急ノ事件アリ文書局ヨリ午後五時前ニ其旨ヲ通知シテ同九時迄ニ原稿ヲ交付スレハ差支ナク印行スベシ但シ午後九時後ハ附録ト

ナシ刷行スベシ

第八條　印刷局ハ官報ノ部数ニ従ヒ左ノ時間

割ヲ以テ刷成折畳ノ上之ヲ驛逓局ヘ送付スベシ但シ印刷局ノ怠慢又ハ過誤ニ非スシテ臨時障碍ヲ生シタルカ為ニ時間ヲ遅延シ其事由明白ナル時ハ別ノ取扱ヲ保ノ限ニ在ラス

三千部以上五千部未満	三時四十五分前　二千四百余部
五千部以上七千部未満	二時三十分前　二千部
七千部以上一万部未満	四時五十分前　二千五百余部
一万部以上一万五千部未満	二時三十分前　二千部
	四時五十分前　三千部
	三時四十分前　三千部
	二時三十分前　三千部
	四時五十分前　四千余部

一万五千部以上　同　二時ヨリ一時間毎ニ五千部ヅヽ

第九條　印刷局ハ毎朝驛遞局ヘ交付シタル部数時付及其授受ノ証ヲ併セテ文書局ヘ差出スヘシ

第十條　官報印刷ノ部数増減アル片ハ毎日午後五時迄ニ驛遞局ヨリ印刷局ニ通知スヘシ

第十一條　官報印刷ノ代金ハ印刷局ニ於テ翌月七日迄ニ前月分ヲ計算シ明細書ヲ製シテ文書局ニ差出スヘシ文書局ハ同十二日迄ニ印刷局ヘ拂渡スヘシ

第十二條　現今布告ニ用ユルモノト同様ノ体裁ニテ法律規則ノ印刷ヲ命スル片ハ百枚六銭六厘ノ割ヲ以テ印刷スヘシ但シ印刷ノ部数ハ其都度文書局ヨリ通知スヘシ

第十三條　印刷局ニ於テ若シ此箇條ノ履行ヲ怠リ其他不都合ナル始末アル片ハ官報ノ印刷用ヲ廃止スルヿアルベシ

第十四條　以上ノ條款實行ノ後若シ不便ヲ生シ又ハ不足アルトキハ之ヲ改正増刪スルヿアルベシ

明治十六年五月十日 太政官

第五付参照

過日ハ御光臨奉謝候其節御内話之府縣ヘ到達之表即別紙差上申候御覧可被下候然ル處無税一件ハ[illegible]ト計兼候處一日三万枚ノ新紙郵送税ハ即三百円ト相成リ一ヶ月ニ九千円ヲ要シ申候是ハ迚モ當局ノ力ニハ及不申候倉卒御答申上候段今更恐縮之至ニ存候實ハ其節一桁違ヘテ胸兼致候御笑殺可被下候萬拝睹ニ讓リ申候頓首

十二月四日

清水

小松原若見特更書

付箋

一縣分 六百九十八間
平均 此歩数 二万四千四百
此間市壱分 二貫二百目（壱分 代銭二四七五文）

總里（各所名所屋敷）
六千七百三十二間

新商紙三郡商人府縣ハ通区役所ニ収税概算（中縄引除ク）

△通区役金 千弐百八拾壱円九拾五銭六厘 壱銭分
ノ此三千日分 金三万八千四百五拾八円六拾八銭
○此十年月分 金四拾六万千五百四円拾六銭
但日万八銭ニ付壱銭ヲ以テ算出ス

△税金 三百四 第九千四
○此十年月分 金拾万八千四

差引

△金九百八拾壱円九拾五銭六厘 九厘
ノ此三千日分 金弐万九千四百五拾八円六拾八銭 九厘
○此十年月分 金三拾五万三千五百四円拾六銭 五厘

付箋

なるべき事なれば速に差出し候様
御尚書奉承り候段一応併特約之儀を以て
世子殿迎送之節も亦極メ難き儀に付
〆年と申儀迄に乗と古慣議申上候千
万郎内外之儀は前条に委敷申述候
生余未当に扶て之国人事に付迄に古倉と
被仰渡

十二月十七日

中松原隼蔵　野村靖

官報無稅郵送ニ付テハ客月二十二日付蒼示ニ趣
領承仕ル部數千七百部ト限リ置ク事ニ就テハ
特ニ約束ヲ如何様ニ約束致シタルヤ然ルニ年數
恐指ニ至テ存ジ得ズ尤約束ニ箇條取調ヒ
命草案ニ通ニ付キ幸甚ニ至ル次第
仍依頼旨意ヲ敬具

十六年一月六日　中村泉英太郎

野村駅逓總監殿

官報郵送ニ付約束ニ付年月分ヲ申越シ趣領収
右ハ物数重量等総テ概算年額五百円ヲ以テ約束
可申就テハ左シ仲シ得ル意度
一各郵便局ニ於テ取扱上一般ノ郵便物ト混交セザル
為メ右郵便物ハ「郵便税納済」ノ印判ヲ捺シ差
出相成度
一右郵便物ハ開封若シクハ帯封ヲ以テ差出相成度
一右郵便物数ハ千五百部シ趣ニ付得共若シ増減アル
ハ其旨ヲ報知相成度

一 右約束期限ニ義ハ會計年度ニ都合等為シ
狀ニ付年年 月ヨリ同六月迄ト定メ爾後ニ義猶
其際ニ於リ継續若シクハ改約ニ義ハ為ノ右協議
年狀
一 收納稅五百円ノ年額ハ之レヲ月額即チ十二ケ月ニ割リ四拾壱
円ニ拾六錢余ニ相成狀処毎月四拾壱円ツヽトシ其端
數ハ滿期ノ末月ニ一同右差越シ相成度
右ハ他猶巨細ニ伸ヘハ當局主務ノモノヘ右商議ニ上
為取計狀條件ニ付及右照會狀也
十六年一月十三日 野村靖

小松原英太郎殿

一日 千五百部
一ヶ月 三萬七千五百部
一年 四拾五萬部
四拾五萬部ヲ以テ五百円ヲ割ル八一部
壱厘壱毛壱弗余ニナル

一昨十六日真中一等驛遞官ヨリ致御面晤候官報郵送并賣捌ノ義別紙ヲ以テ御質議及ヒ御協議申上候條可然御再考相成度且過日山縣參議閣下ヨリ御下ケ相成候別冊ハ貴官迄反上候間反敷御取扱相成度北畝得御意候也

十六年四月十八日　野村靖

小松原先生

九下

約條挾

第一条

第一考挾

駅逓局約條挾第一条ニ郵便税貳厘トシ
金令挾第三条ノ割合ニ依レハ金八厘ノ
手數料合壱銭ヲ駅逓局ニ納ムルナリ如
斯両別スルモ其出納ノ調理上於テ合壱
銭ノ総額ハ収入ニ立テ而シテ之レニ對スル
経費即郵便税及手數料ノ総計ハ別ニ
支出ヲ仰カサルヲ得ズ故ニ之レヲ両別ス
ルモ實際ニ於テ其効用アルヲ視ズ寧一般

ノ税則ニ従ヒ壱銭ハ單ニ郵便税トシ別ニ
手數料ノ目ヲ置カサル方可然尤定時
印刷物即新聞紙等ノ郵税ハ一般ノ税
則ヲ以テスルモ猶収支不償モノニモ拘ハ
ラズ此官報ハ特別ナルヲ以テ其郵送ノ為
メニナスベキ装飾且徹夜ノ取扱ニ係ル
費用及其代金取立等ノ手數莫太ナ
ルモ是等ハ総テ駅逓局通常経費中
ニテ負擔スベキ見込

第二考按

若シ郵便税ト手數料トヲ分別セズシテ
差支ノ事由アレハ郵便税ヲ六厘トシ
手數料ヲ四厘ト改正有之度支

第三条

郵便税納済ノ捺印及帯封ハ駅逓局ニ
於テ為スモノニ可有之然レ𪜈東京府下
ハ別ニ帯封ヲ用ヒザル積
定式賣渡ス毒ノ部數及ヒ豫備數ノ
豫定承知致度支

命令按

第三条

一部貳銭貳厘ノ原價云々ハ約条第一条
ノ場合ニ於テ詳悉ス

第五条

賣下代金ハ前金送納ニ限ルトセバ本条ニ
テ差支ナシ若シ後金買下ヲ許スト𪜈ハ

東京ハ翌月其他ハ五ケ月以内ニ納ムベシ
但受入タル金額丈ヲ漸次内納スルハ閑ナレトス「郵便税収入ノ経験ニ因テ之レヲ定ム」
然レ𪜈後金納ノ内不納者アルキ其分ハ如何スヘキヤ致承知度事

第六条

午后三時迄ノ報告ヲ區切リ同四時迄ニ駅逓局ヲ発シ印刷局ニ通知スルニ改正有之度事

左ノ趣意ヲ以更ニ一条ヲ加ヘタシ

前条區切リ后ニ於テ減シ不用ニ属スルモノ並豫備ノ為メ不用ニ属シタルモノ及ヒ不達ニシテ再度逓送配達スルモノ

ノ代價ハ駅逓局ノ責ニ任セザル様致度事

第七条

郵便配達発送ノ時刻ハ定規アルヲ以テ其定期ヲ最初文學局ニ報告シ爾後ハ只印刷局ヨリ受取タル部數時刻ノミ翌朝報告致度事

左ノ趣意ヲ条中ニ加ヘタシ

印刷休暇日ヲ定メ及ヒ臨時休暇ハ前日駅逓局ヘ報告有之度事

一官報ハ如何ナル休裁ナルヤ若シ冊子ノ休ナラスシテ折リ畳ミ逓送スベキモノナル

件ハ其折リ畳ミハ印刷局ニ於テ其手數
有之度事

第一考按ニ對スルノ答
郵便税ヲ二厘トセシハ官報ハ特別ノ性質
ヲ有スル者ナレハ特別ノ取扱ヲ以テ斯ノアラン
コトヲ望ム者ニシテ手数料ト混淆セザランコトヲ
要ス
手数料ハ即チ配達其他郵送ノ為ニナスヘキ
装飾及ヒ代金取立等ノ手数ヽ報酬スル者ニ
シテ而シテ日報社ヘ責務ヲ命スル件ハ手数
料ハ五厘ヲ超ヘ点トナシ引受ケル答ニ有之然ルニ

今之ヲ八厘ト為セシモノハ一ニハ特ニ減税ノ為
ニ生スル驛逓局収入ノ不足ヲ補ハシメンカ為ナ
レハ又一ニハ責弘和等ヲ設置スルトキハ後責
ヲ局ナル驛逓局ヨリ何程カノ手数料ヲ責弘
人ニ給與セサルベカラサルニ因リ其裕餘ヲ與ヘ
ンカ為ニ特ニ手数料ヲ八厘トセシナリ旁郵税
ト手数料トハ混淆スヘカラス
第二考按ニ考スル答
前陳ノ事由ナルヲ以テ郵便税ハ矢張原按ノ
通二厘トナシ特別約定ヲ行結セントヲ望ス

第三條ノ問ニ考スル答
第一項ハ表見ノ通ニテ差支ナケレハ勿論異
存ナシ
第二項必責ノ定数ハ凡ソ千以下部内ノ見
込ナリ除倣ハ別仕セス婚求ノ数ノミ別行スル
モノトス

命令掲中ノ問ニ答スル答

一第五條責下代金ハ前金ニ限ルモノトス

一第六条ハ責見ノ通リ改正スベシ但シ同日中必ス文學局ヘモ通知スルヿニ致度

又區切後ニ於テ減シ不用ニ帰スル官報ノ代價ハ文學局ノ負担ニ帰スルモノトス但シ不達ニシテ再度逓送配達スルノ費用ハ責拂方ニ於テ負担スベキモノトス

一第七条ハ責見ノ通ニテ差支ナシ

其他郵ヲ表見ノ通ノ改事

明治十六年四月

明治十六年五月五日

別紙甲号驛逓總官ノ来書ニ付乙號ノ通リ更ニ回答致度ハ

第一項郵便税ノ儀ハ二厘ト致シ特別約定可取結積リヲ以テ過日伺定ハ虚該局申出ノ趣有之ニ付五厘ト相改メ度尤モ郵便税ヲ五厘ニ上ケハ代リ手数料八厘ノ方ヲ五厘ニ下ケハニ付官報ノ定價ハ従前ノ通リニテ変更無之候

其他郵ヲ表見ノ通ノ改事

明治十六年四月

明治十六年五月五日　内閣書記官別局

別紙甲号驛逓總官ノ来書ニ付乙號ノ通リ更ニ
回答致度ハ
第一項郵便税ノ儀ハ二厘ト致シ特別約定可取
結積リヲ以テ過日伺定ハ虚該局申出ノ趣有之
ニ付五厘ト相改メ度尤モ郵便税ヲ五厘ニ上ケハ
代リ手数料八厘ノ方ヲ五厘ニ下ケハニ付官報ノ
定價ハ從前ノ通リニテ変更無之候

次ニ第二項豫備印刷ノ儀ハ該局ノ申出無之トモ何程カ豫備不致ハテハ不相成ト見込居ハ儀ニ有之旁三拾部ヅヽ豫備致置度キ部ノ原價貳錢ニ付一ヶ年分百八十四ヲ要シハヘハ他ニ廣告料ノ収入モ多少可有之ニ付彼是差引ハヘハ僅々ノ費途ニ相成可申存ハ其他ノ條項ニ於テハ費額等関係無之且為念及通知有之ハ右ハ至急ヲ要シハ儀ニ付速ニ仰高裁ハ也

甲号

別紙

第一考案ノ再答

最初第二ノ考案ヲ立テシハ手數料ト郵便税トヲ両別セザレバ事実ニ於テ大ナル差閊ヘアランモ計リ難キニ據リ取調タルモノナリ然ルニ右考案ニ對シタル御意見ヲ見レバ必ズシモ両別セザレバ差閊ヲ生ズルノ理由無之哉ニ推察致シ候就テハ曩キニ申進候第一考按ノ通リ御訂正相成度其理由ヲ左ニ陳述ス

抑モ新聞雑誌ノ如キハ郵便條例ニ據リ執レヨリ發行スルモ総テ同一ノ税ヲ

次ニ第二項豫備印刷ノ儀ハ該局ノ申出無之トモ何程カ豫備不致ハテハ不相成ト見込居ル儀ニ有之旁三拾部ヅヽ豫備致置度キ部ノ原價貳錢ニ付一ヶ年分百八十四ヲ要シハヘモ他ニ廣告料ノ収入モ多少可有之ニ付彼是差引ハヘハ僅々ノ費途ニ相成可申存ハ其他ノ條項ニ於テハ費額等関係無之且為念及面芳置度廉ヽ有之ハ右ハ至急ヲ要シハ儀ニ付速ニ仰高裁ハ也

甲号

第一考案ノ再答

最初第二ノ考案ヲ立テレハ手數料ト郵便税トヲ両別セザレバ事実ニ於テ大ナル差閊ヘアランモ計リ難キニ據リ取調タルモノナリ然ルニ右考案ニ對シタル御意見ヲ見レバ必ズシモ両別セザレバ差閊ヲ生ズルノ理由無之哉ニ推察致シ候就テハ曩キニ申進候第一考按ノ通リ御訂正相成度其理由ヲ左ニ陳述ス

抑モ新聞雑誌ノ如キハ郵便條例ニ據リ執レヨリ發行スルモ総テ同一ノ税ヲ

十六年五月二日 驛遞総局持参

以テ逓送配達スベキモノニ有之官報ト
亟モ別ニ其税ヲ異ニスルヲ得ズ若シ
特別ヲ以テ之ヲ逓送配達スルトキハ該
條例ニ抵觸シ加之他ノ誹議モ尠シト
セズ固ヨリ郵便税ト手數料トヲ両別
スルノ如何ニ拘ハラズ其費途ニ於テハ
別ニ增減ヲ生ズル訳ニ無之猶且ツ會計
上簡單ナル便宜モ有之旁斷然第一
考按ノ如ク致度
但賣捌所ヲ設置スルモ其手數料
等ノ費用ハ固ヨリ當局負擔ノ
積リニ有之候
第三条第二項ノ再答

豫備ヲ刷出セザルトキハ不達等ノ場合
ニ於テ再度ノ逓送ヲ要スルトキ其部數
ヲ新ニ刷出ノ御見込ニ有之候哉
命令按中第五条ノ再答
豫備刷出ナキ御見込ナルヲ以考フレバ
総テ前金約條人ノミニ限リ賣下臨時
即驛馬逓局(其他賣下所アレバ其賣下所
ヘ一葉若シクハ二葉ノ買請ヲ申出ルモ
賣下ケザル御立按ノ精神ト認ノ候果
シテ然ラバ賣下所ハ有名無実ノモノニハ
無之哉
同按第六条之再答
不達ニシテ再度逓送配達スルノ費用ト

アルハ其官報ノ原價ハ含有セザルモノト思量スト何トナレバ駅逓局ハ郵便逓送配達中不達遅着等ヨリ生スル指出人請取人ノ損失ヲ辨償スル所ニ無之段ハ條例ニ明文有之決シテ其責ニ當ルベキモノニ無之矣又賣捌人ノ廉ヲ以テセンカ此切迫ナル金額（郵便税手数料トヲ區別スルト否トニ拘ハラズ）ヲ以再度ノ刷出等為シ得ベキ義ニ無之故ニ含有スルモノトセバ負擔ニ難堪モノニ有之矣

一郵便税ト手数料トハ全ク性質ヲ異ニスルモノナレハ其區別ヲ混同スルヲ得ス尤手数料ヲ五厘トナシ郵税ノ貳厘ヲ上テ五厘ト為スハ差支ナシ

一郵便不達等ニテ再度逓送ヲ要スル場合ニ於テ若シ官報破損等アルトキハ其事由ヲ述ヘ文書局ヘ照會アラハ之ヲ交付スベシ之カ為メ文書局ハ多少ノ豫備ヲ印刷シ置クベシ但該官報ノ原價ハ文書局ニ於テ負擔スルモノ

トス

一賣弘所ノ設否ハ驛遞局ノ便宜ニ任スルニ付實際無益ナレハ必ス設置スルヲ要セス

一官報ハ通常前金約定人ニ限リ賣下クベキモノトス但官廳其他購賣義務ヲ有スル者府下ハ現ニ前金送付無之向ヘハ毎月代金請求人ヲ相廻レ候樣御取計有之度

一官廳廣告ノ外銀行諸會社ノ報告等ハ官報ヲ以テ廣告スルヲ許シ其廣告料ヲ收ムルニ付官報發行ノ日ニ於テ別紙ノ通廣告ヲ為ス積ニ有之尤此等ノ廣告ヲ依頼スル者ハ極メテ稀ニ有ルヲト存候此件命令書ノ个條中ニ書加候ニ付御照知置相成度事

明治十六年五月四日

明治十六年五月

内閣書記官別局

今般太政官ニ於テ官報発行相成候ニ付テハ
従前各新聞社ヘ布告布達書等下付ノ儀ハ全
ク廃止シ総テ官報ニ據テ抄録致サセ候テ可
然哉ト存候此段御高裁候也